

2021（R3）年度

<2021（R3）/4/1 - 2022（R4）/3/31>

事業報告・活動計算書等

目 次

1 事業報告

- (1) 全 体 2 p
- (2) 山口市市民活動支援センター「さぼらんて」 5 p
- (3) ほっとサロン中市「まちのえき」 22 p
- (4) こども明日花プロジェクト 25 p

2 活動決算

- (1) 決算報告書 33 p
- (2) 各種内訳 41 p

特定非営利活動法人 山口せわやきネットワーク

■ 法人全体事業報告 ■

特定非営利活動法人山口せわやきネットワークは、市民の『まちづくり意識向上』『まちづくり参加』『まちづくり活動展開』のしくみづくりを目指して、平成 15（2003）年 6 月 11 日に法人としてスタートし、15 年目となる平成 30（2018）年 5 月に税制上の優遇措置を受けられる認定格を取得しました。

この制度をフルに活用し、令和 3（2020）年度も、新型コロナ緊急支援の呼びかけを行い、500 万円の寄付を集めることができました。平成 28（2016）年度からの寄付累計額は、3,000 万円を越えました。

今後も N P O の柔軟性や機動力を生かして、市民を巻き込みながら誰もが幸せに暮らせる地域社会に一層貢献していきたくと考えます。

事業においては、設立のきっかけともなった、**山口市市民活動支援センターさぼらんて**の運営（山口市委託）、**高齢者等交流施設ほっとさろん中市まちのえき**の運営（山口市委託）とも安定した事業展開をしています。平成 28（2016）年度にスタートした**こども明日花プロジェクト**は、新型コロナ緊急支援もあり、総事業費が前年（2020 年総額 2,917 万円）を大きく超える 4,100 万円（前年比 1,200 万円増）となり、寄付額が 500 万円、委託、助成、寄付と多様な財源確保で運営しています。コロナ禍で厳しい状況は続きますが、ボランティアの協力も得て、こども食堂の開催は弁当配布などに切り替えて実施しましたが、学習会・居場所などは感染対策を取って、ほぼ予定どおり実施しました。

昨年度も、新型コロナの感染状況により、まん延防止対策による貸館停止など、活動には様々な影響があり、さぼらんてやまちのえきではイベント等の利用が減少しました。こども明日花では引き続き、困窮するひとり親家庭への支援などの取組を強化しました。

今後も各事業とも職員の安全を優先しながら、事業成果に向けて工夫が必要だと感じています。19 年目が終了し、今後も市民組織らしい、巻き込みと多様な財源確保ができる組織づくりを目指します。

1 会 議

(1) 総会

①通常総会

- 日 時：5月29日（土）10:30～12:00
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて、オンライン（zoom）
- 出席者数：正会員 12 名（内、書面表決出席 6 名）、監事 1 名、職員 1 名
- 内 容：令和 2（2020）年度事業報告・収支決算、監査報告
令和 3（2021）年度事業計画・活動予算

(2) 理事会

①第 1 回

- 日 時：4月26日（金）18:00～19:30
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて
- 出席者：理事 2 名（渡辺理事欠席） 職員 1 名
- 内 容：＜報告＞令和 3（2021）年度活動予算、職員体制
＜協議＞令和 2（2020）年度事業報告、補正・収支決算、総会等

②第2回

- 日 時：9月6日（月）18:00～18:30
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて（オンライン）
- 出席者：理事3名
- 内 容：＜協議＞最低賃金見直し（引上げ）への対応

②第3回

- 日 時：11月26日（金）18:00～20:00
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて（オンライン併用）
- 出席者：理事3名、職員1名
- 内 容：＜報告＞令和3（2021）年度事業経過報告 明日花の助成金活用等について

③第4回

- 日 時：2月21日（月）18:00～20:20
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて
- 出席者：理事3名 職員1名
- 内 容：＜報告＞令和3（2021）年度事業経過報告
＜協議＞令和3（2021）年度補正予算・決算見込み
令和4（2022）年度事業計画及び活動予算
定款変更について（臨時総会（書面表決））
諸規程の変更について

(3) 監 査

- 日 時：5月13日（木）18:00～19:00
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて

2 事 業

(1) 山口市市民活動支援センター「さぼらんて」に関する事業 《定款事業①②③》

○令和3年度山口市市民活動支援センター運営事業

◇山口市（協働推進課）委託事業

山口市市民活動支援センター運営事業：委託契約書及び委託仕様書に基づき、「施設管理」「普及・啓発」「相談」「人材発掘・養成」「事務局支援」「ネットワーク」の6機能をベースとして事業実施。新型コロナの感染拡大による「一時休館」はないものの、まん延防止対策期間中は「貸出自粛」となった。それ例外の期間は利用者に対してマスク着用、手指消毒等呼び掛けた。

(2) ほっとさろん中市「まちのえき」に関する事業 《定款事業①》

○令和3年度高齢者等交流施設運営事業

◇山口市（高齢福祉課）委託事業

高齢者等交流施設運営事業の委託契約書に基づき、運営法人として「休憩機能」「交流機能」「相談機能」「情報機能」を基本機能として設定、「移動支援機能」を付加機能として実施しました。昨年度に続き、コロナ対策として、利用者数の制限、換気等に努めた。また、フリーマーケット

ットは3密を回避するため、常設を継続している。

(3) こども明日花プロジェクトに関する事業<定款事業②③> ※<>は財源

- 学習支援 <山口市委託・WAM助成・寄付>
- 居場所づくり <山口市委託・寄付>
- こども食堂支援センター<山口県委託事業>
- ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）<WAM助成>
- こども食堂・地域食堂、小郡中・宮野中 学校朝ごはん <WAM助成>
- 資金調達 委託、助成金のほか共同募金、企業、一般など
- 新型コロナ緊急支援：
 - ・休眠預金活用事業「新型コロナ緊急支援」2件
 - ・ひとり親家庭支援「みんなにエール！弁当」「ごちそうさまプロジェクト」

(4) その他の市民活動<定款事業①②>

- ①ホームページの更新
 - 当法人としてのホームページ <https://yamaguchi-sewayaki.com/>
 - 各事業の紹介と賛助会員募集（カード決済可）
- ②講師等派遣
 - 特になし

《認定NPO法人山口せわやきネットワーク定款抜粋》

【目的】本会は、市民及び市民団体を応援し、もって、みんなの幸せを考え誰もが住みよいまちづくりを目指した新しい社会システムの構築を図ることにより、社会の公益の増進に寄与することを目的とする。

【事業】本会は目的を達成するため、次の事業を行う

- ①市民のまちづくり意識向上のしくみづくり事業
- ②市民のまちづくり参加のしくみづくり事業
- ③市民のまちづくり活動展開のしくみづくり事業
- ④その他、本会の目的を達成するために必要な事業

■山口市市民活動支援センターさぼらんて事業報告■

I 委託契約に基づく事業報告

1. 山口市協働推進プランの位置づけ（抜粋）

（1）目指す協働による地域づくりの姿

地域を思い、人々が集い行動する「地域経営」へ
～共に話し、共に汗をかく～

（将来にわたり安心して暮らし続けることのできる地域社会を目指す）

地域経営の定義

地域全体で地域の将来ビジョンを共有し、地域の課題解決に向けて地域内外の様々な団体が参加、協議し、役割分担しながら、地域の持てる資源（人、もの、金、知恵）を有効活用して地域を動かし、持続的に地域の暮らしを支えていくこと。

（2）前期推進計画

基本事業2 市民活動の育成と支援の強化

推進項目① 市民活動団体への支援の強化

- ・新たな基金の創設、ガバメントクラウドファンディング等を活用した新たな財政支援制度の検討
- ・NPO 法人の新規設立促進、安定的運営の支援
- ・市民活動支援センターを中心に、市民活動団体の人材育成に向けた取り組みを推進

② 市民活動団体と市との連携体制の構築

- ・市民活動団体と市の担当課等との円卓会議、話し合いの場づくり

③ 市民活動支援センターの機能強化及び環境整備

- ・地域と市民活動団体とのマッチング
- ・地域住民が市民活動に参画するためのきっかけとなるプログラムの作成
- ・子どもや若者の社会貢献活動への参加促進プログラムの作成
- ・幅広い世代の市民が交流できる市民活動支援センターの環境整備
- ・市民活動支援センターを中心に、高校生や大学生に対して、地域や市民活動等のボランティアのマッチングを行う仕組みづくりの構築

【基本目標】

市民活動団体からの相談対応、伴走支援を基本に以下を重点テーマとする。

○市民活動への参加のきっかけを提供

- ・大学生インターンシップによる市民活動団体のPR 動画制作による情報発信。
- ・これまで実施した大学生を交えた円卓会議での意見を反映した、SNS を活用したマッチングのしくみづくり。

・誰にでも居場所と役割がある地域を目指して、多様な社会参加の入り口となる市民活動への参加情報の収集・発信。

○市民活動と地域コミュニティのつながりづくり

協働推進課と連携し、地域コミュニティのニーズを把握した上で、市民活動団体とのマッチングの推進やその他の地域支援への協力。

○市民活動団体へのマネジメント支援

- ・寄附など多様な財源確保に向けて、公共の担い手として社会的信頼の得られる事業計画づくりなどの伴走支援を行う。
- ・社会課題のテーマごとに行政との連携・協働に向けた円卓会議の実施。

【With コロナ対策】

令和2年度は緊急事態宣言により、山口市の指示で一時期、休館したが、3年度は感染状況による「貸館利用休止」はあるものの、閉館にはならなかったため、スタッフは感染対策を取りつつ、通常勤務を行った。また、貸館利用ができる時は、入口に手指消毒用の消毒液を備え、また、来館者用に非接触で体温を測れる検温計を設置、空気清浄機による換気など、利用者への感染防止対策を行った。

令和2年度に整備した、リモートワーク等に係る設備等は継続して、活用された。

- ①リモートでの相談対応
- ②登録団体が行うリモート会議・講座のサポート
- ③リモート会議等に必要な備品貸出（Wifi、タブレット、会議用マイクスピーカー、モニター等）
- ④さぼらんでホームページ上でのボランティア情報の充実

1 施設管理

(1) 開館日

水曜日及び年末年始（12/29～1/3）、祝日を除いた日を基本の開館日としている。新型コロナにより、貸館利用休止（5/30～6/20、8/17～9/26）はあったが、閉館はなかった。

開館日数：267日

相談のみ対応日数：28日（貸館利用休止期間）

休館日数：70日

(2) 開館時間

9：30～18：00

※利用団体の講座などの準備に合わせて、スタッフは9時より出勤

登録団体の時間外利用は柔軟に対応

(3) 各種手続き書類・フォームの配置

①市民活動団体向け

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 登録市民活動団体への提供サービスのしおり | <input type="checkbox"/> 市民活動団体登録・変更用紙 |
| <input type="checkbox"/> 会議利用報告書 | <input type="checkbox"/> ブログ反映機能申請書 |
| <input type="checkbox"/> 印刷機利用カード | <input type="checkbox"/> 機材借用書（貸出） |
| <input type="checkbox"/> 持込みイベント申込書・報告書 | <input type="checkbox"/> インターネット使用簿 |
| <input type="checkbox"/> 窓口業務依頼申請書 | <input type="checkbox"/> ボランティア募集フォーム |

②内部用

- | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 相談内容入力フォーム | <input type="checkbox"/> 機材貸出予約簿 | <input type="checkbox"/> 拠点利用フォーム |
|-------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|

□日計表（日別集計表・累計表・月別平均表）

□職員業務フォーム

※内部用書類は、Kintone アプリを作成し、共有する仕組みを構築

2 普及・啓発及び情報収集・提供

積極的に情報収集を行い、市民活動の意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切に発信した。今年度は開館20周年を記念し、SDGsをテーマに市民団体を巻き込んだオンラインイベントを開催した。その他、団体紹介のミニポスター展示をするなど、来館される方への普及・啓発も充実させ、ホームページへの支援情報、団体情報、講座レポートなど引き続き情報集積にも力を入れた。

また、市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的として、市内幼稚園、保育園、小・中学校へ配布のほか、全地域への回覧とした。

講座など事業実施後はホームページ上にレポートを掲載するとともに、「円卓会議」など実施後はかわら版も作成し、事後の広報にも努めた。

(1) 市民活動に関わる情報の収集及び整理

①山口市内の市民活動情報…団体ごとの個別ファイルを作成。

②NPO支援情報…全国の支援情報やNPO関連図書を配置。

③市外の市民活動情報…全国の支援センターやNPOの情報を配置。

④助成金情報…年間助成金一覧表を、分野別、締切日別に作成し掲示。

年間スケジュール、募集中の助成金ラックを設置し、探しやすい工夫をした。

⑤ボランティア情報…外から見やすい入口付近にコーナーに設置した。

(2) 広報紙等の発行

1年間の市民活動支援の事業報告や円卓会議などのかかわら版を発行し支援内容を伝える他、山口市まちづくりアンケートにある「機会があれば市民活動をしてみたい(34.1%)」という市民活動予備軍ともいえる市民に対しての啓発紙「ええやん新聞」にも力を入れ、市民と市民活動をつなぐ発信を心がけた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にしたい。今年度は、SNSでの発信に力を入れるべく、LINE公式アカウント、Instagramを取り入れた。

①さぼらんで事業情報

○さぼらんでの令和4年度の事業方針及び事業一覧

【対象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 600部

【形態】 A5サイズ 4P 手刷り

○さぼらんでかわら版

さぼらんで事業後に内容をわかりやすくまとめたものを発行

○さぼカフェかわら版 ①地域猫保護猫編 ②多文化共生編

【対象】 市民、登録団体、地域交流センター、関係各所

【発行部数】 1000部

【形態】 A4サイズ 4P 手刷り

②助成金情報



主にさぼらんてに登録している任意団体が利用しやすいように想定し、Facebook での発信、助成金
豆知識や他団体の声、資金集めの情報などをプラスして発信。

ア. さぼらんてからのおいしい助成金情報の発行

【対 象】 市民活動団体向け 隔月発行（年6回）

【発行部数】 500部

【形 態】 A4サイズ 両面 手刷り

イ. 助成金情報メルマガ

紙媒体では伝えていない情報も追加し、全ての情報の助成元にリンクを張り、毎月メール送信

【対 象】メルマガ登録団体および担当者 33団体 38名へ

ウ. Facebook タイムラインの活用

Facebook を利用している団体に向けて、助成金情報をシェア。

③ええやん新聞

市民活動予備軍といえる潜在市民を対象とし、身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取
組みを市民目線で発信し、この層の新しい価値観との出会いや気づきを刺激し、まちづくりへの参加
・参画のきっかけを創出し、誰もが心豊かに暮らせる山口を目指す市民を増やすことを目的とする。

【編集上の工夫】

- ・リモート取材や会議の活用。
- ・Google フォームやファイル共有の活用。
- ・モニター制度により、読者の声を次号に反映した。
- ・25号は20周年事業に合わせてSDGsの視点を取り入れた。
- ・発送作業ボランティアを募集し、社会貢献の意欲の充実とさぼらんてや市民活動を知ってもらおうき
かけとした

【発行内容】

- ・発行回数：年2回（10月1日／2月1日）、号外1回（12月1日）
- ・発行部数：24号…30,000部、25号…30,000部、号外…3,000部
- ・対 象：市民（主に20～50代の子育て世代想定）
- ・配 布 先：市内公立幼稚園、小・中学校、21地域交流センター、子育てひろば、山口市全地域回
覧、道の駅、山口市内マルキュウ店舗、他関係各所。

【特集内容・テーマ】

今年度は「子どもたちの未来を考える」をテーマに、子どもたちが自立した大人になるために大人
がすべき「子どもを見守ること」を考える記事を、子どもたちが生きる未来のためにできることを考
える「持続可能な社会（SDGs）」についてを発信した。

また、号外はこれまで12年間ええやん新聞の制作を担ってきた市民広報記者や関係者取材し、
ええやん新聞の歴史や記者の経験談や思い、女性の働き方などについてを掲載した。

<24号>特集：子どもの「やってみたい」を育てる

○ええやんピープル：臼井裕貴子さん（「プレーパークを山口に」実行委員長）

○親心 vs 子心（特定非営利活動法人もりのこえん、防府市こども遊ばせ隊わいわい、小郡図書館友
の会鉢の子）

- レシピ 味噌玉づくり（仁保くらすメイトプロジェクト）
- 目かくしサッカー体験!!（ゲートウェイやまぐち）
- 我が子のおやじから地域のおやじへ（白石小学校おやじの会）
- さぼらんで 20 周年記念企画（さぼらんで）
- クイズ ・ 編集後記

<25 号>特集：子どもたちに残したい持続可能は社会

- ええやんピープル：白木美和さん（仁保くらすメイトプロジェクト代表）
- 知ろうよ！SDGs!!（アレルギーっ子の会ぼれぼれ、さくら猫やまぐち、林業女子会@山口）
- わからないことがあっても聞けない不安（国際交流ひらかわの風の会）
- レシピ「マルタバ・トゥロー」（国際交流ひらかわの風の会 レニさん）
- クイズ ・ 編集後記

<号外>（さぼらんで開設 20 年、ええやん新聞 12 周年）ええやん新聞「市民広報記者」を逆取材

これまで 1 2 年間ええやん新聞の制作を担ってきた市民広報記者や関係者を取材し、ええやん新聞の歴史や記者の経験談や思い、女性の働き方などについてを掲載した。

【成果】 市民意識の啓発、市民記者の人材育成を以下のとおり評価

■読者アンケート集計

項 目	24号	25号
より身近に市民活動を感じた(理解・関心が高まった)	29.7%	21.1%
社会課題(特集内容)について考えるきっかけ、共感につながった	32.4%	35.1%
情報提供を活用	16.2%	14.0%
はじめの一歩につながる勇気、元気、やる気につながった	8.1%	19.3%
さぼらんでの周知につながった	5.4%	1.8%
その他	8.1%	8.8%

- ・ ちょうど「プレーパークを山口に」実行委員会の署名活動が地域のニュースで取り上げられたとき、ええやん新聞でプレーパークについてをリアルタイムに発信できたので、関心を示す声が多かった。
- ・ アンケート集計では、子育て中の人よりも子育てが終わった人たちから「こういった団体の情報を知っておけばよかった」という意見が多く見られ、レシピ記事の感想から食への関心の高さも伺えた。
- ・ 20 周年記念事業のことを掲載したので、さぼらんでや SDGs について知りたいと積極的に特設サイトを見てもらえた。
- ・ 長年、地域で活躍している白木さんのお顔を見て手に取り紙面を開く人が多かったように感じる。
- ・ インドネシアのレシピというこれまでにない切り口での発信が功を奏したのか、外国人支援の記事に関心を持った人が多かった印象。
- ・ 特集で取り上げた SDGs は今、まさに誰もが気にし始めているが「大きすぎて自分たちには関係ない」と思われていることだと感じた。特に、これまでの 60 代以上の応募数よりも 10 代以下の小中学生からの反応が多く、SDGs は子どもたちが関心を持つ内容だったと伺える。そして、感想内容も自分事として捉えていた人が多くいた。

④活動インフォメーション

毎月の市民活動情報の中から一般市民が馴染みやすい情報を選定し、紙媒体として発行。商店街の

チラシ入れなど、広く市民の目につくところに配置。

【対 象】 市民向け 毎月発行

【発行部数】 偶数月 1000 部、奇数月 570 部

【形 態】 A4 サイズ 両面 手刷り

(3) ホームページ

ホームページへの来訪者が「ボランティア」ワードでの検索が一番多いことから、トップページにボランティア募集を配置している。コロナ禍で、対面よりもネット検索で情報を得やすいように、ボランティア情報を始め、講座レポートやお知らせなど基本情報の蓄積をし、SNS 等での拡散に努めた。

■アクセス数は、36,783 件。実人数 26,707 人。アクティブユーザー数：62 件/日。

①登録団体ブログ反映機能の利用

	令和3年度	令和2年度	令和元年度	H30年度	H29年度	H28年度
利用団体数	322	319	311	311	307	297
更新団体数	41	47	42	52	52	64
年間記事数	1,310	1,460	1,561	1,362	1,766	1,982

登録団体（322）の基本データは全て掲載。

②ホームページ等での情報発信

お知らせ：11 件 講座等レポート：7 件 さぼろぐ（ブログ）31 件 Facebook：89 件

(4) SNSの活用

①Facebook：さぼらんての近況報告及び団体活動を発信。

②Instagram（ボランティア）：主に一般市民に向け、ボランティア募集情報を発信。

③Instagram（ええやん）：主に一般市民に向け、ええやん新聞の裏話などを発信。

④LINE公式アカウント：登録者に向け、主にさぼらんてでのイベント情報を発信。

	Facebook	インスタ（ボラ）	同（ええやん）	LINE
いいね、フォロワー数	814	281	102	97
年間記事数 2021.4~2022.3	89	24	24	61

(5) 情報交流コーナーの活用（「さぼらんて」前面フロア）

①市民活動紹介コーナー：団体紹介ミニポスターを作成し掲示。

②助成金コーナー：展示場所を前面に出しPR。

③NPO法人情報コーナー：NPO法人格取得に向けて情報発信など、掲示が固定化しないようにレイアウトを随時変更するとともに、市民活動等に関する情報を分野ごとに見易くなるよう掲示した。

(6) マスコミ等の活用

報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを実施。

(7) 市役所ロビーなどにおける市民活動出張展示

コロナ禍ではあったが、例年どおり写真やキャッチコピーで団体の活動内容が一目でわかる「市民活動紹介ポスター」など展示し、幅広い市民に向け、市民活動情報の提供を行った。

- 【展示内容】・さぼらんでポスター
 ・登録団体活動紹介ミニポスター55 団体
 ・発達障害啓発週間（4月2日～8日）
- ・さぼらんで広報紙(ええやん新聞等)
 ・団体パンフレット 28 団体

【展示場所】開催日：令和3年3月23日(火)～4月15日(木) 場 所：山口市役所ロビー

3 相 談

市民活動支援を中心に多様な相談に対応した。特に運営相談はコロナ禍での課題も多くあったが、常に寄り添う支援を基本とし、コロナ禍での各種補助金やオンライン導入に関する相談等にも対応した。

また商店街での立地により、市民の活動相談等も多く、相談対応や市民活動団体への橋渡しを行った。

(1) 相談・問い合わせへの対応

市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のために対面・電話・メール、Zoomによる相談に応じ、助言を行い、内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

○相談件数 479件（来所 194件、電話等 285件）

○問い合わせ件数 175件（来所 92件、電話等 83件）

※職員の相談カードに記載された特記事項のあるものの件数は637件（グラフ集計総数）

(2) 相談・問い合わせの内容の一覧化

4 人材発掘・養成

市民活動団体の永遠の課題、人材不足・資金不足を解決するための寄付集めや事務力の簡素化、などに焦点を置き講座を実施。また、以前、開催したファンドレイジングや Kintone 講座については、講座終了後も伴走支援を行っている。

全ての講座において、講座レポートをホームページにアップし、団体支援の情報として蓄積していった。

(1) 講座・セミナーの開催

①活動充実講座

	講座・研修	日付	講 師	参加者
1	NPOのための会計基礎講座	7/4 10:00-12:30	(株)FPオフィス縁 代表 中村久枝さん	9 団体 10 名
2	ボランティア入門講座（全4回）	4/23（2回） 7/17・7/19 オンライン	さぼらんで、こども明日花 スタッフ	計 41 名
3	ワークショップで学ぶ SDGs（Zoom）	8/21、8/27 13:00～16:30	NPO 法人フードバンク山口 今村主税 理事長	21 団体 22 名
4	みてみて！私の編集動画	3/8 10:00～12:00	NPO 法人あっと 佐々木 恵 さん	4 団体 17 名

1. NPO 法人の会計では適正な会計処理は当然であるが、任意団体においても、助成金や寄付等について、しっかりとした報告をするため、会計の目的を理解し、適切な会計が行えるよう、会計の基礎を学ぶ。
2. ボランティア入門講座は、主に山口大学において、市民活動団体が募集するボランティア活動を紹介する出前講座を、こども明日花プロジェクトのスタッフと一緒にを行った。3・4 回はコロナ感染拡大

のために伴うでオンラインのみ。

- ワークショップで学ぶSDGsはさぼらんで開設20周年記念事業「わたしからはじまるSDGsマイチャレンジ」に参加してもらう、山口市内の団体23団体と対象に、SDGsを学び、それぞれの団体の活動がSDGsとの関連付けによるSDGsの理解を深め、取組の促進を図った。
- みてみて！私の編集動画は、情報発信ツールとして主流になっているSNSの中でも動画や映像をうまく取り入れるため、動画発信の得意な団体から、学びたい団体に編集の経緯や方法などをシェアすることで発信力のスキルアップを図った。

(2) 市民活動団体への運営支援

任意団体、NPO法人を含めた運営支援やこれから立ち上げる団体への支援などの寄り添い支援に力を入れた。今年度は解散に向けた作業への支援も行った。

①運営支援 4団体（NPO法人2団体、任意団体4団体）へ9回

内 容	団体数	回数
団体運営支援（組織、会計、協働など）	1 団体	5 回
オンライン講演会開催への支援	1 団体	2 回
解散に向けた作業の支援	1 団体	1 回
事業、情報発信の相談対応	1 団体	1 回

②アワードへの推薦

「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」など5つのアワードに5団体の推薦を行った。

(3) 企業×NPOのつながりづくりプロジェクト「支え人。」

7年目を迎えて、閉業した個人事業主の方があったものの、それぞれNPOと企業のつながりは深く安定し、よいパートナーとなってきている。

【2021年度実績】

寄 付 金 総 額 **88,624円**

5年間の寄付総額 **1,609,946円**

エントリーNPO法人：①認定NPO法人こどもステーション山口

②NPO法人あっと

協 力 企 業：① (株)メルシー

② 木のおもちゃ専門店 リンドヴルム

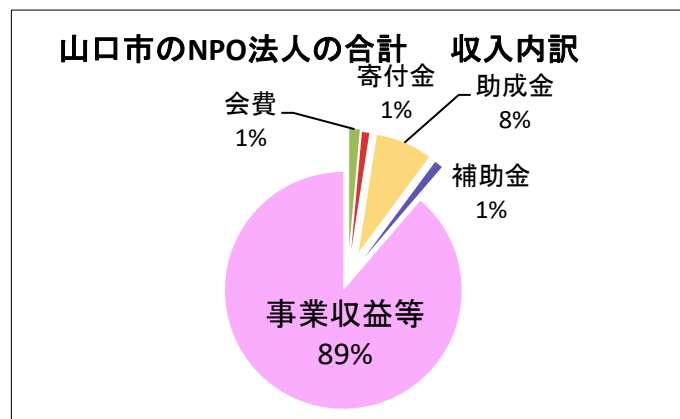
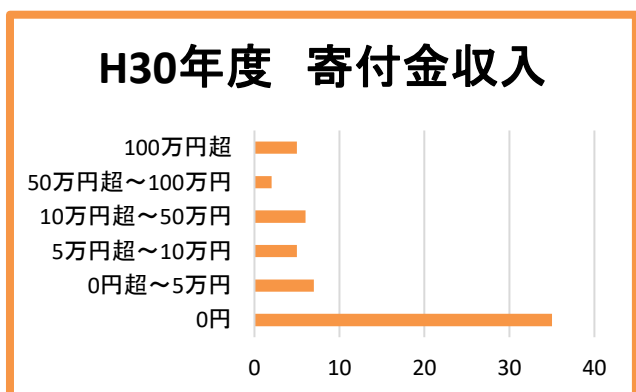
③ ポーラ Sweet

④ (株)モリイケ

⑤ (有)BAY TOKYO

その他の連携：NPO法人山口せわやきネットワーク（こども明日花プロジェクト）への「こどもの未来応援企業」提携企業3社、自動販売機設置企業4社

【参考】 山口市内の NPO 法人のリアル



山口市内に主な事業所を置く NPO 法人 80 法人についての調査。平成 28 年の改正 NPO 法に基づく公告義務を果たしている NPO 法人は 8 法人に留まり、今後指導の必要性がある。

寄付金のない NPO 法人が 35 団体と半数以上を占める。年間 100 万円以上の寄付金収入のある団体は 5 法人にとどまっている。収入については、介護サービスや委託などの事業収集が 90% を占め、寄付金については 1% にとどまり、多様な財源確保には程遠い現状がある。

(4) インターンシップ推進事業

山口県インターンシップ推進協議会からの受入れは、コロナの影響で 2 名のみを受け入れた。

■推進協議会からの受け入れ 1 回目(2 名、5 日間)

○学 生 山口大学経済学部 3 年(女子)、同人文学部 2 年(女子)

○期 間 令和 4 年 2 月 14 日(月)～令和 4 年 2 月 19 日(土)

○受入団体 協力団体 6 団体

※推進協議会からの受入(3 名、5 日間)は、コロナ感染拡大により、中止した。

(5) 学生による動画作成事業

令和 2 年度から始めたによる動画作成を継続し、オリエンテーション、団体選定、撮影・取材、編集、団体王レビュー、Youtube に公開(さぼらんで特設ページ)、に取り組んだ。

■以下の団体取材し、5 分程度の構成を考え、編集作業をおこなった。

○山口県ボッチャ協会 ○.Style(ドットスタイル)

○ゲートウェイやまぐち ○囲炉裏の会

○アレルギーっ子の会ぽれぽれ ○ママバンド

(6) ボランティア募集の発信強化

さぼらんでへの相談のうち、「ボランティア活動をしてみたい」が 1 割あり、コロナ禍でボランティアが集まりにくい団体にもニーズがあることから、引き続き、ボランティア募集の情報発信に努めた。

①ホームページで市民に発信

トップページに新情報を 3 件ずつ掲載、表示画面も関連画像を加えて視覚的にわかりやすく、情報も項目ごとに整理して掲載した。また、ホームページのボランティア情報を簡単に印刷できるようにした。

②拠点で市民に発信

さぼらんて入口に「ボランティアコーナー」を設置して、ホームページのボランティア情報を印刷して、掲示するとともに、持ち帰りできるようにした。活動インフォメーションの中にも掲載した。

③SNS で発信

ホームページに掲載したボランティア募集情報をさぼらんての SNS (Facebook とボランティア情報に特化した Instagram) でも発信し、市民や団体へからも拡散できるようにした。

5 協働促進・ネットワークに関する業務

(1) さぼカフェ

地域における様々な課題を行政や関係機関、NPO など団体や個人が一堂に会して、情報共有や課題の分析、それぞれの強み・弱み、解決に向けた協働や連携の在り方などの検討を行う「地域円卓会議」としてのさぼカフェについて、2つのテーマを掲げて実施した。

(テーマ1) 地域猫・保護猫～人と猫の幸せな共存のために～

第1回 日時：2021年8月13日(木) 13:00～15:00 会場：さぼらんて会議室

参加者：12名(5団体6名、行政3名、さぼらんて他3名)

内容：・猫問題を軽減するための先進事例紹介
・個別ワーク：現在の猫の不妊・去勢手術費助成制度活用のアイデア出しほか

第2回 日時：2021年9月14日(火) 13:00～15:00 会場：オンライン (Zoom)

参加者：6名(3団体4名、行政1名、さぼらんて1名)

内容：・前回の振り返り
・山口大学吉田キャンパス一斉 TNR についての説明
・事例検討ケースワーク、まとめ

(テーマ2) 言葉や文化を超えて、誰もが住みやすいまちにするには

第1回 日時：2021年8月10日(火) 13:00～16:00 会場：さぼらんて会議室

参加者：11名(7団体6名、行政、さぼらんて)

内容：・各団体活動紹介
・団体の強みと課題の発表

第2回 日時：2021年9月28日(火) 13:00～16:00 会場：さぼらんて会議室

参加者：12名(6団体6名、行政、さぼらんて)

内容：・外国人に関する山口県の現状とやまぐち外国人相談センターでの相談内容
・ワークで事例抽出、設問の検討 など

上記の内容をまとめたかわら版を発行。

(2) さぼらんて開設 20 周年記念事業

①「わたしからはじまる SDGs マイチャレンジ」

ア 目的 さぼらんて開設 20 周年記念事業として、最近、普及しつつある SDGs と山口市内の活動団田を結びつけるとともに、企業の協力も得て、市民が参加することで、団体間のネットワークや企業や個人を巻き込んだ「市民活動」の進展を図ろうとするもの。

イ 内容 「一人ひとりのまちづくり意識の向上」「活動の展開」「参加の場の提供」を目的に市民活動支援センターを設置して 20 年周年を記念して、コロナ禍にありながらも、まち全体で地

域課題に取り組みをすすめるため、近年注目の集まる SDGs と SNS を組み合わせ、誰でも参加、アクション出来るチャレンジ企画を実施した。

- ウ 実施 「ワークショップで学ぶ SDGs」(別添)に参加の 23 団体+2 団体が、SDGs 目標達成のために誰でもアクションできるチャレンジメニューを提案。子どもから大人まで誰でも参加でき、参加者は SNS もしくは専用フォームからチャレンジを実践してその内容を写真にメッセージを添え投稿。入賞者には協賛企業より賞品を授与。
- ・企画名：わたしからはじまる SDGs マイチャレンジ
 - ・実施期間：令和 3 年 10 月 1 日(金)～令和 3 年 11 月 30 日(火)の 2 ヶ月間
 - ・対象：SDGs に関心のある方なら誰でも(但し、マイチャレンジ賞の対象は賞品を取りに来られる山口市近郊にお住まいの方に限る)

エ 結果 チャレンジ投稿数 602 投稿(実人数 138 人)

オ 実施ポイント

- ・特設サイトを開設し、投稿内容の集積と情報発信を強化、進捗に合わせて併せて 3 回修正した。
- ・SDGs や社会貢献に力を入れている地元企業の取り組みについて取材し、紹介動画を作成した。
- ・Instagram、Twitter からの投稿を推奨し、情報の拡散やムーブメントを図った。
- ・チャレンジメニューを考案するにあたり、団体には参加のハードルを最大限に低く設定した「誰でも」「いつでも」「何度でも」できる視点を取り入れてもらい、緩やかではあるが、習慣化しやすい行動変容を目指した。
- ・協賛企業からのプレゼント付きの賞を準備、ゲーム性を持たせることで参加の間口を広げた。
- ・自分ごと化を促進するために、「わたしから」とタイトル付けした。また、SDGs がより実生活とつながりを感じられるよう、地元 NPO が取り組む身近な課題を 17 のゴールごとに発信した。

② さぼらんで 20 周年記念紙作成

ア 目的 さぼらんでが開設 20 周年を迎え、これまでの活動の記録を整理し、関係者に配布した。

- イ 内容
- ・A4 巻き 3 つ折り 6 P のパンフレットの作成(両面カラー 1000 部発行)
 - ・年表及び関係者コメント
 - ・20 周年に寄せて(団体関係者からのメッセージ)
 - ・特設サイト内特集ページ「20 周年記念紙インタビュー」元スタッフ等の声を動画公開

(3) その他地域づくり関連事業

① 地域協力事業

小鯖地域づくり協議会による小鯖全住民アンケートにおける結果報告会等をサポートした。(9 回)

(4) その他のネットワーク

- ① 関係各所との連携に向けて、以下のとおり関係会議等に参加。

【市民活動支援県域会議等】

日付	会議名	主催	場所	参加者
2021/5/27	県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター	Zoom	2名
2022/3/3	県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター	Zoom	1名

【審議会等】

日付	会議名	主催	場所	参加者
2021/6/28	域外プロボノワーカー受入れ団体審査会	山口県	山口県庁	1名

6 市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

(1) 市民活動団体登録制度の運用

○2021年度末 登録団体数：322団体（前年度319団体）

＜NPO法人41（内認定NPO法人4）団体、
その他の法人7団体、任意団体270団体＞

新規登録団体数：5団体

解散団体数：2団体

(2) 登録団体へのサービス提供

①場の利用による支援

- ・団体BOX利用：要望のあった団体に、その都度設置した。

利用団体数：24団体

- ・会議室の提供：利用件数：342件

利用団体数：44団体

- ・市民活動団体持ち込みイベントへの提供

利用件数：119件（延べ利用日数160日）

利用団体数：18団体

- ・印刷機材の提供：利用件数：157件

利用団体数：35団体

②事務局機能の代行による支援

郵送物等の受け取り、イベント・講座等の「連絡取次窓口」として、市民活動団体事務局機能を一部代行。イベント・講座等の「連絡取次窓口」利用件数：18件

③広報支援

- 「さぼらんての広報紙」発送時の同封サービス

「さぼらんての広報紙」送付時に、登録市民活動団体の情報紙やチラシを同封して送付した。

なお、送付作業への協力を得ることで、協力団体同士の情報交換を併せて実施。

利用団体数：18団体（偶数月発送作業）

- マスコミ等への広報活動の助言

市民活動団体行事等において、随時、マスコミ等への記者配布等の助言を行った。

○ホームページの団体行事カレンダーへの掲載

持ち込まれた団体のイベントチラシなどの情報は全て、ホームページの団体行事に反映した。

④機材貸出による支援

貸出機材件数：357件

□ワイヤレスマイク式	14件	□マルチプロジェクター	21件
□スクリーン	10件	□パネル	9件
□イゼル	59件	□Wi-Fiルーター	8件
□延長コード	32件	□スピーカーフォン	22件
□モニタ	89件	□台車	33件
□体温計	26件	□その他	27件

(3) コロナ禍におけるオンライン講座・会議等に向けての支援と機材貸出しサポート

市民活動における感染症拡大防止のため、イベントや会議等をオンライン開催に移行する団体への運営サポートのために機材の無料貸し出しを行う。(令和2年度山口県頑張る県活動団体応援事業補助金活用)

①県内支援者ネットワーク勉強会

オンライン運営マニュアル作成、お試しオンライン会議、運営研修などを通じて、オンライン会議の支援力を高めた。団体からのオンライン会議等の支援は40件以上になる。

②機材貸し出し

登録団体等には、通常の貸し出し機材に加えオンライン講座等で活用できる機材(以下一覧)を新規に購入。貸出器材について、さぼらんでHPよりお知らせした。

品名(個数)	品名(個数)
マイクスピーカー(2)	LANケーブル10m(1)
タブレット(2)	LANケーブル5m(1)
タブレット台(2)	HDMIスプリッター(1)
三脚付き広角カメラ(2)	HDMI(2m)(1)
モニター(2)	HDMI(10m)(1)
パーテーション(5)	ワイマックス(モバイルWi-Fi)(1)
非接触体温計(3)	ドラム式延長コード(2)

7 その他の事業

(1) 館内募金箱の設置

東日本復興支援のため、さぼらんででは寄付やカンパを募り、山口市内から東日本復興支援活動をする市民活動団体へと配分しました。

寄付金総額 36,333円
寄 付 先 ①りす会山口
②福島～山口いのちの会
③山口災害救援
上記団体に12,000円ずつの配分

(2) 企業から不織布マスクの寄贈

市内企業から不織布のマスクの寄付があり、以下の団体に配布した(25,000枚)。

■配布先団体

- ①災害支援ネットワーク(6,000枚) ②山口県子ども食堂ネットワーク(5,000枚)
- ③ジャイカOB会(3,000枚) ④こども明日花プロジェクト(5,000枚)
- ⑤日本語クラブ(500枚) ⑥平川風の会(500枚)
- ⑦ドットスタイル(3,000枚) ⑧フードバンク山口(2,000枚)

II 運 営

1 職員体制

職員の内外研修により市民活動のみならず、地域づくりへの支援力の向上に努めた。昨年度からのコロナ禍におけるオンライン会議や講座などの支援力を高める(Zoom研修など)とともに、感染対策を徹底した施設管理、利用者保護に努めた。貸館利用休止の時期はあったものの、閉館等はなかったため、勤務は通常時と同じく、ローテーション勤務により平日については4～6名、休祭日については2～3名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館1時間前の9時から対応した。

○事業スタッフ6名(常勤6名)、広報スタッフ2名、学生スタッフ7名(インターンスタッフ含む)

○ボランティアコーディネーション力3級取得者5名配置

<NP0 法人日本ボランティアコーディネーター協会認定>

○NP0 法人事務力検定初級4名配置

2 意見聴取

「さぼらんて」への意見・要望を、下記のとおり随時聴取し、運営の参考とした。

- 市民活動団体来所時及び相談対応時における意見の聞き取り。
- 「さぼらんてだより」同封作業時に協力市民活動団体から聞き取り。
- 講座開催時の参加者アンケートによる把握。
- ええやん新聞における「モニタースタッフへのヒアリング」、「読者アンケート」を実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り。
- 団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り。
- インターンシップ時にもワークを行い、幅広い世代の人と社会課題意識の掘り下げ。

3 定例連絡会等

「さぼらんて」設置者の山口市協働推進課と運営NPO職員と、よりよい市民活動支援に向けて、連絡会を実施。事業実施においてのスムーズな連携、市民活動支援の意義の共有などができた。

【協働推進課情報交換会等】

日付	内 容	担当課	さぼらんて
2021/5/18	年間スケジュールについて	2名	5名
2021/8/19	事業の進捗について	2名	5名
2021/12/20	事業進捗状況と予算について	2名	5名
2021/2/7	山口市協働推進プラン(後期計画)について	2名	5名
2022/3/17	年間事業進捗と次年度事業について	2名	5名

4 職員研修

中間支援力向上のために、内外多数の講座・研修に参加し、参加後は職員間で内容を共有する時間を持った。今年度はコロナ影響で殆どがリモートで参加できるもので、「ファンドレイジング日本」「日本ボランティアコーディネーター研究集会」などに参加できた。

研修等一覧

① 運営支援のための講座・研修等 (17回のべ22名参加)

日時	内 容	主催	場所	参加者
2021/4/25 2021/4/26	2021年度・中間支援組織・支援センター役員向け合同研修会	中国5県中間支援組織連絡協議会	オンライン	2名
2021/4/26	SDGsの地域での推進と目標達成のために中間支援組織にできる行動は？	中国5県中間支援組織連絡協議会	オンライン	1名
2021/5/14	福島と島根で考える【地域・高校教育コーディネーターの資質・能力を考える公開会議その②】	NPO法人カタリバ	オンライン	1名
2021/6/28	シンポジウム「公益性の高い地域事業活動のこれからのあり方・進め方ー事業活動実施者の立場からー」	未来工学研究所 創立50周年記念 事業事務局	オンライン	1名
2021/7/12	子どもたちの社会貢献を教える案内役～社会貢献教育ファシリテーターになるための基礎研修～(山口)	中国チャプター・ 日本ファンドレイジング協会	オンライン	3名
2021/7/20	たねカフェ『描いて場をつくるグラフィック・レコーディング』共著者になってみたよ報告会	NPO法人市民プロデュース	山口市男女共同参画センター	2名
2021/7/29	未来の地方を創る「コミュニティデザインの力」	THE OWNER	オンライン	1名
2021/8/28	県民活動団体財政基盤強化セミナー 認定NPO法人の資金調達の事例をもとに寄付収入増加を図るセミナー～認定	NPO法人やまぐち県民ネット21	オンライン	1名

	NPO 法人のメリット～			
2021/9/1	県民活動団体財政基盤強化セミナー 参加と応援を集めるクラウドファンディング&寄付募集の戦略を学ぶセミナー	NPO 法人やまぐち県民ネット21	オンライン	2名
2021/9/27	令和3年度WAMシンポジウム「NPOと行政との協働の現在地～地域共生社会の実現に向けて～」	独立行政法人福祉医療機構	オンライン	1名
2021/10/7	NPO 事務局 学びの教室「理事の役割」	やまぐち県民活動支援センター	オンライン	1名
2021/11/15	県民活動団体財政基盤強化セミナーふりかえり会	NPO 法人やまぐち県民ネット21	パルトピア	1名
2021/12/3	NPO 事務局 学びの教室 税務編「源泉所得税と年末調整」	やまぐち県民活動支援センター	オンライン	1名
2021/12/12	令和3年度市民公開講座「多頭飼育問題や高齢動物の問題行動等の予防と対策～人と動物の調和のとれた快適な暮らしづくり～」	山口県獣医師会	防長苑	1名
2021/12/25	「やまぐち若者 MY PROJECT」リフレクションプログラム	公益財団法人ひとづくり財団	山口県セミナーパーク	1名
2022/1/17	令和3年度 山口市災害ボランティア研修会	山口市社協	オンライン	1名
2022/1/25	山口県こども食堂・子どもの居場所ネットワーク「スキルアップ事業」研修会	山口県子ども食堂・子どもの居場所ネットワーク	オンライン	1名

■主なサービスの数値集計

分類	内容		令和3年度	令和2年度	令和元年度	
基本	入館者数		29,518	21,768	21,007	
	登録団体		322 <small>(新規5、解散2)</small>	319 <small>(新規13、解散5)</small>	311 <small>(新規8、解散9)</small>	
各種サービス	相談等	相談総数		479	591	538
		内訳	来所	194	266	340
			電話	285	325	198
		問合せ総数		175	78	164
		内訳	来所	92	44	103
			電話	83	34	61
	拠点活用支援	会議室利用	総数	342	252	257
			利用団体数	44	34	34
		印刷機利用	総数	157	93	166
			利用団体数	35	28	39
		団体インターネット利用		55	45	64
		持ち込みイベント	開催のべ日数	160	75	86
			イベント数	119	60	34
			利用団体数	18	17	9
		機材貸し出し件数		357	146	177
		団体BOX利用団体		24	20	19
	情報発信支援	同封サービス利用団体		18	18	36
		ポータルサイト (さぼらんてHP) 利用団体	利用団体数	322	319	311
			更新記事数	1,310	1,460	1,561
			更新団体数	41	47	42
活動・お知らせ 更新団体数			0	2	2	
ブログ反映機能 利用団体数			62	45	40	
その他	ホームページ アクセス数	総数	36,783	33,586	21,341	
		実人数	26,707	24,548	14,286	

■～ほっとサロン中市「まちのえき」～ 事業報告■

＜高齢者等交流施設運営業務 山口市高齢福祉課：委託事業＞

平成15年4月20日、市民の交流の場となる施設【ほっとサロン中市「まちのえき」】が山口市中心商店街：中市商店街に設置され、高齢者等交流をテーマとした事業が始まりました。

平成15～18年度は高齢者を中心とした幅広い世代交流をテーマに、平成19～24年度は「ひと」と「まち」をつなぐをテーマに、平成25～令和元年度は高齢者同士の交流をテーマに、令和2年度からはフリーマーケットも織り交ぜた重層的な交流をテーマにしつつ、特に本年度は「高齢者に向けたデジタル情報活用の提案」を主要テーマとして事業展開を図りました。

また、新型コロナウイルス感染症デルタ株感染拡大防止集中対策期間のため、8月27日から9月26日まで、臨時休館しました。なお、開館中は下記の通り新型コロナウイルス感染症防止対策を実施しました。

1 施設管理・運営

高齢者から子どもまで、障がいの有無に関係なく、誰もが気軽に交流できるサロンを商店街に設置し、管理・運営を行いました。

- ・開館時間 10:00～16:00
- ・休館日 水曜日・日曜日・祝日・盆・年末年始
- ・施設及び備品類の管理
- ・利用者統計 令和3年度利用状況参照

2 休憩・交流

“ほっ”と一息つける雰囲気を提供を心がけ、利用される方同士の交流の場や機会を提供しました。

- ・お茶の提供
- ・フリーマーケット in まちのえき

人と人とのつながりづくりを目指して、フリーマーケットを開催しました。（施設開館日の10:00～16:00）

3 健康相談（まちの保健室）

プライバシーに配慮した個室に保健師又は助産師、看護師が常駐（1日1人の当番制）し、血圧測定を行いました（新型コロナウイルス感染症防止対策として、健康相談及び体脂肪測定は休止）。

（1）開室日時 10:00～16:00（休室時間12:00～13:00）

※水曜日、土曜日、日曜日、祝日、お盆、年末年始は閉室。

（2）会 議

対応方法等を共有するための連絡会議を開催しました（年2回）。

（3）利用状況 令和3年度利用状況参照

4 情報

（1）「まちのえき」リーフレット令和3年度版の発行（715部）

（2）店頭情報コーナー設置

（3）情報誌の発行

○まちのえきだより（月1回 各355部）

「まちのえき」からのお知らせ、皆さんから教えていただいた情報、スタッフのつぶやきなどを掲載しました。

○まちのえきデジタル通信（年3回 各355部）

インターネットを活用した新たな交流を目指して、スマートフォンの活用方法などを掲載しました。

（4）情報誌の発送

希望者に「まちのえき」の情報誌を発送しました（登録9名）。

（5）SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）での発信

「まちのえき」の状況や商店街の様子、スタッフの日常などを発信しました。

○ツイッター <https://twitter.com/machinoeki>

○インスタグラム https://www.instagram.com/machinoeki_yamaguchi/

○フェイスブック <https://www.facebook.com/machinoeki/>

5 移動機器の貸出

○貸出日時 施設開館日の10:00～16:00

○貸出状況

・車いす3回 ・シルバーカー4回 ・ベビーカー0回

6 その他

○山口市「赤ちゃんの駅」に参加

・4月1日～3月31日

○感染症拡大防止のため臨時休館

・8月27日～9月26日

＜令和3年度＞ほっとサロン中市「まちのえき」利用状況

（単位：人）

	開館日	利用者数	1日 平均	イベント等	まちの 保健室	1日 平均	タウンモビリティ			
							車いす	シルバーカー	ベビーカー	
H15～19年度	1,469.5	73,607	50	5,831	23,869	16	198	—	332	
平成20年度	266.5	14,019	53	1,849	4,759	18	41	—	154	
平成21年度	265	14,778	56	2,137	5,268	20	81	6	67	
平成22年度	267	14,536	54	1,812	5,624	21	39	9	34	
平成23年度	267	17,234	65	1,487	5,562	21	42	9	41	
平成24年度	267	18,425	69	1,684	6,657	25	25	26	31	
平成25年度	267	21,759	81	2,262	6,498	24	32	29	32	
平成26年度	268	23,592	88	2,769	5,829	22	20	31	34	
平成27年度	264	23,869	90	2,565	5,153	21	13	29	30	
平成28年度	267	20,275	76	2,577	4,705	19	11	16	22	
平成29年度	265	19,693	74	2,629	3,683	15	11	11	11	
平成30年度	239	17,694	74	2,642	3,547	16	6	6	4	
令和元年度	224	17,176	77	2,535	3,397	16	8	3	3	
令和2年度	215	13,297	62	—	2,362	12	10	2	0	
令和3年度	4月	21	1,462	70	—	188	11	0	0	0
	5月	20	1,285	64	—	170	11	0	0	0
	6月	21	1,448	69	—	183	11	0	0	0
	7月	21	1,264	60	—	158	10	0	0	0
	8月	14	878	63	—	102	9	1	0	0
	9月	3	229	76	—	34	11	0	1	0
	10月	22	1,808	82	—	154	9	1	1	0
	11月	21	1,665	79	—	144	8	0	0	0
	12月	20	1,553	78	—	135	8	0	0	0
	1月	19	1,296	68	—	118	8	0	0	0
	2月	19	1,168	61	—	121	8	0	2	0
	3月	21	1,547	74	—	144	8	1	0	0
	計	222	15,603	70	—	1,651	10	3	4	0
合 計	5033.0	325,557	65	32,779	88,564	18	540	181	795	

■こども明日花プロジェクト 事業報告■

1 経過・内容

「子どもの貧困問題」の解決に向けて、2016年5月14日発足式で活動開始を発表した「こども明日花プロジェクト」の活動6事業年度は、2020年2月からの新型コロナによるコロナ禍2年目で、感染対策を行って、学習会や居場所づくりはほぼ活動できましたが、第5波、第6波により、こども食堂の通常開催はできないままとなりました。

コロナ禍の影響を受けているひとり親家庭など子育て家庭を応援する「みんなにエール！弁当」や「ごちそうさまプロジェクト」に加えて、食料品を配布する「フードパントリー」など実施しました。

また、昨年度に続き、各種のコロナ対策緊急支援の民間助成金を活用し、特に休眠預金活用事業の助成金による県内各地や山口市内全域でのフードパントリーなど、幅広い活動に取り組むことができました。

県委託事業「こども食堂サポート事業」では、コロナ禍においても、県内のこども食堂は増え続けており、立ち上げや運営面でのサポートを行いました。また、企業や団体からの食品提供も増えており、県内各地域のネットワークを通じて、多くのこども食堂に届けることができました。

依然として、新型コロナは収束していませんが、引き続き、困難な状況が続く子育て家庭を支援するため、関係機関と連携して、取組を進めていきます。

今年5月で活動開始6周年となり、当初は想定しなかった様々な課題と向き合い、どのように対応するか、できるか、これまでの成果を振り返り、今後果たすべき役割を見据えて、次期5か年計画を策定し、活動の充実強化を図ってまいります。

○プロジェクト名 「こども明日花プロジェクト」

○ビジョン どんな環境に生まれ育っても、子どもが明日（あす）に希望を持てる社会を実現する

○ミッション 1. 子どもたちが安心して過ごせる居場所と学びの環境を提供し、自立を支援する

2. 身近な大人が子どもたちを見守り、受け止める地域をつくる

3. 生活困窮など困難を抱える家庭が地域で孤立しないよう見守り、支える ※

下線部は5周年にあたり、見直し、追加したもの

○事業内容

- ・「学習支援」無料学習会（食事付き）、施設等へのボランティア派遣
- ・「生活支援」食事支援（こども食堂）、食品等の配布など
- ・「居場所づくり」課題を抱える子どもたちが安心できる居場所づくり
- ・普及啓発・人材育成、地域の包括支援の体制づくり
- ・生活困窮家庭を支える食料等の提供など

2 事業内容

(1) 学習支援

① 無料学習会

毎週土曜日、午前中、主にひとり親世帯や就学援助対象世帯などの中学生を対象に無料学習会（昼食付）を山口市内5カ所で開催。※まん延防止期間中は一時休止。

会場	期間	回数	延べ参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	2021.4～2022.3	47回	222人	117人	125人	242人
平川	2021.4～2022.3	26回	57人	51人	40人	92人
小郡	2021.4～2022.3	42回	205人	42人	3人	45人
大内	2021.4～2022.3	24回	63人	67人	12人	79人
宮野	2021.4～2022.3	20回	143人	53人	37人	90人
阿知須	2021.11～2022.3	回	11人	※学習教室スマイルと合同		
	計	159回	701人	330人	217人	447人

※阿知須は2022年4月から地元グループと合同実施。

② 施設への派遣（児童養護施設）

入所している児童・生徒の学習補助ボランティアを派遣してきたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年間を通じて取りやめ。

派遣先	期間	回数	学習ボランティア	備考
吉敷愛児園	—	一回	—人	その他送迎ボランティア

(2) 居場所づくり事業（山口市委託事業）

主にひとり親世帯の子どもを対象とした「子どもの生活・学習支援事業（上記の学習支援の一部を含む）」を受託、毎週土曜（午後3～7時半）、小中学生への学習支援と食事支援（夕食）実施。※感染対策を取り、ほぼ実施した。

会場	期間	回数	延べ参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	R3.4～R4.3	46回	432人	220人	131	351人

(3) 子どもの見守り強化事業（山口市委託事業）

コロナ禍にあって、孤立・困窮する子育て家庭等を弁当配布等で支えた全国のこども食堂などの活動が評価され、2020年度国の第3次補正予算で「こども食堂等が要保護児童対策地域協議会の支援家庭を訪問、状況把握や食事提供（弁当）など」を行う「見守り強化事業」が2020年10月から始まり、2021年度も山口市から委託を受け、各地域の見守り支援員の方々に協力いただき、見守りと弁当配布等に取り組んだ。

(4) ひとり親家庭への支援（シングルカフェ）

ひとり親家庭の保護者グループ・style（ドットスタイル）との共催で、当事者同士が支援に関する情報共有や意見交換を行ってきたが、昨年度はコロナ禍で交流などの期間が減っているため、お茶や

料理などの体験を通じて交流する場づくりを行った。

- ① 11月13日(日) 13:00~14:00 3人(お寺でのんびりお茶会)
- ② 12月5日(日) 13:00~15:30 4人(ひとり親のためのマクロビオティッククッキング)
- ③ 3月6日(日) 10:00~14:00 56人(お金のいらない本屋さん「手ぶらボックス」)
- ④ 3月13日(日) 3家族(オンライン親子de手作り和菓子教室)
- ⑤ 3月20日(日) 13:30~15:00 5家族 16人(田舎の保健室)

(5) 情報発信

- ① フェイスブック 平成28年4月開設
- ② ホームページ 平成29年1月開設、ブログ掲載
- ③ ニュースレター(年3回) 令和3年春、夏・秋、令和4年新年
- ④ 地域情報新聞ほっぷ 平成28年2月から、毎月1回告知記事を無料掲載
- ⑤ 令和2年度活動報告(500部)

(6) 報道

①新聞

- 5月20日(木) 朝日新聞「JT日本たばこ産業株からお米を寄付」
7月23日(木) 山口新聞「県下一斉フードパントリー(防府会場)」
10月4日(月) 山口新聞「月曜インタビュー(児玉代表)」
11月28日(日) 山口新聞「JT日本たばこ産業株から助成金200万円を贈呈」
12月3日(金) 中国新聞「サンタのケーキ便」
12月4日(土) 山口新聞「山口県農協が県内のこども食堂に米3t寄付」
3月18日(木) 山口新聞「5周年記念 こども応援企業に感謝状贈呈」

②テレビ

- 7月23日(金)「県下一斉フードパントリー(下関会場)」TYSテレビ山口
3月10日(日)「こども食堂推進会議」tys テレビ山口

(7) 普及啓発

①「教育と福祉の連携」地域円卓会議

新型コロナ対応で忙しい学校などに配慮し、前年に続き、開催は見送った。

②「山口こども応援ミーティング2022」(2022年2月27日、3月14日)

国会で「こども家庭庁」設置や「こども基本法」成立に向けた審議が続く中、内閣府・子どもの貧困対策に関する有識者委員など務めておられる日本大学文学部教授 末富 芳先生(山口県防府市出身)に子どもの貧困問題の現状と対策に関する2回の講演をお願いし、多くの参加者があり、内容についても大変、好評であった。

(1回目) 2022年2月27日(日) 15時 オンライン

テーマ「子どもの貧困」対策の現状

(2回目) 2022年3月14日(月) 14時 パルトピアやまぐちとオンライン併用

テーマ「子どもの貧困」対策のこれから

参加者：1回目53人、2回目46人 合計99人

(8) 人材育成

社会的課題に取り組む「若き担い手（ヤングワーカー）」を育成するため、問題解決に必要な専門的知識を得るために、専門家による講演と意見交換を通じて、自ら考え、自ら行動する人材を育成する「あすはなカレッジ」を開催した。今回はオンラインでの開催となり、大学生を中心に10人ずつ参加があった。

<講師・日程> 時間は2H、オンライン

No	開催日時	講師
1	3月10日(木)19:00 参加8人	小郡みんな食堂実行委員会 事務局長 柿沼瑞穂（元国際NGO勤務）
2	3月17日(木)19:00 参加8人	NPO法人とりで 理事長 金本秀韓
3	3月24日(木)19:00 参加5人	参加者による2回の振り返り、交流会

(9) こども食堂・地域食堂プロジェクト

○こども食堂

2018年度山口市のふるさと納税を活用したクラウドファンディング事業により、2018年12月から山口市内3地域でこども食堂開設、運営している。

しかし、2020年3月以降、コロナ禍で通常開催ができなくなり、休止、あるいは弁当配布やパントリーに切り替えた。

- ① 大内みんな元気食堂（計4回） 大内地域交流センター 弁当配布
- ② 小郡みんな食堂（計12回） 小郡ふれあいセンター 弁当配布
- ③ えがお食堂よしき（休止） 吉敷地域交流センター 代替としてエール弁当

<開催状況> ※参加無料、弁当配布は事前申込制

地域	開催回数	献立	利用者数	ボランティア	合計
大内	4回	大内地域交流センター	506人	50人	556人
小郡	12回	小郡ふれあいセンター	1,440人	95人	1,535人
吉敷	0回	吉敷地域交流センター	人	人	人
合計	15回		1,946人	145人	2,091人

○小郡中・宮野中「学校朝ごはん」

「朝食を食べてこない」生徒に、ボランティアによる「学校朝ごはん」は小郡中学校長の理解と協力により、2019年6月から毎週水曜日に実施したが、新型コロナ拡大後は一時中止の後、再開した。しかし、2021年度は休止が多く、前年の半分程度となった。

また、食材料として、山口県パン工業協同組合から引き続き、パンの現物寄付（今年は10万円分）をいただいた。小郡中はお米のご飯と交互に提供、宮野中は調理施設がないため、パンと果物、飲み物を提供した。

午前6時30分調理開始、毎回参加の一般ボランティアに加えて、山口学芸大の学生も参加。宮野中は山口県立大学生が参加している。

実績：小郡中 令和3年4月14日（水）から3年12月22日（水）まで15回開催。

利用生徒数 212 人、教職員 30、ボランティア 102 人
宮野中 令和 3 年 4 月 16 日（水）から 4 年 1 月 19 日（水）まで 20 回開催
利用生徒数 131 人、教職員 0 人、ボランティア 60 人

○新型コロナ緊急支援（詳細は別途記載）

コロナ禍 2 年目も、収入減少等で困窮するひとり親家庭など子育て家庭に食料品の詰合せ等を配布した（フードパントリー（3,252 件）。「みんなにエール！弁当（のべ 5,689 食）」や「ごちそうさまプロジェクト（540 家庭）」も継続して実施した。

（10）こども食堂サポート事業（山口県委託事業）

こども食堂が地域の子どもたちの居場所の一つとしての役割が期待され、また地域において多世代が交流する機能についても注目される「こども食堂」を県としても普及促進に取り組み、知事が「3 年後に 100 カ所」にすることを掲げて、元年度から「こども食堂サポート事業」の委託を開始。中間支援機関として「山口県こども食堂支援センター」を掲げ、こども食堂の運営や開設について、相談対応や支援を行ってきた。

コロナ禍で、通常開催はできないものの、弁当配布やフードパントリーなどで、地域の子育て家庭と関わり続けるこども食堂も多く、支援センターとしても、感染症対策の研修会や、助成金情報、寄付された食料品等の配布など、活動を支援した。

「開設セミナー」：当初予定どおり、4 か所で開催、登録制度や支援内容など情報提供を行った。2022 年 1 月、県広報誌にこども食堂特集記事が掲載され、問い合わせが増加したため、追加のセミナーをオンラインで実施した。コロナ禍でも、新規開設も続き、年度当初は 90 カ所であったが、年度末には 115 カ所を超えている。

<7 月 8 日宇部市、7 月 19 日長門市、7 月 21 日光市、7 月 29 日周南市、3 月 7 日オンライン>

「推進会議」：関係機関がこども食堂に関する情報共有を図り、協力して普及促進を目指す「県こども食堂推進会議」は、2 回（10 月 22 日、3 月 28 日）開催。

「ボランティア説明会」：コロナ禍でのボランティア募集を行うための説明会はコロナ禍で「会場」での開催ができず、オンラインで 2 回実施した（7 月 14 日、3 月 10 日）。

（11）山口県こども食堂・子どもの居場所ネットワーク（事務局）

・県内企業・団体等からの食料品等寄付の受入

JA 山口県から県内こども食堂にお米 3 トン寄付、山口県酪農協同組合から牛乳、ヨーグルト寄付、深川養鶏農協から鶏唐揚げ寄付、丸久から台湾パイナップル寄付など受け入れ、県内のこども食堂に配布した。

・スキルアップ事業（県子ども子育て応援ファンド助成金「こども食堂特別枠」）

1 月 25 日（火）NPO 法人抱樸（北九州市）理事長 奥田知志（オンライン）

抱樸の取組を通じて、貧困・孤立を学ぶ（参加者 60 人）

3 月 27 日（日）NPO 法人等支援する今給黎辰郎さんから、こども食堂の運営やファン

ドレッシングに関する研修（さぼらんとオンライン併用）20 人

（12）トワイライト事業

こどもの居場所づくりに参加する子どもの中でも、より細かいケアが必要と考えられる子ども少人数に対して、複数のボランティアが関わり、勉強や買物、入浴、食事などを一緒にして手厚い支援

を行うもの。令和元年度から3年目となり、対象者は以前から通う高校生で月1回、学校帰りに寄り、ボランティアと一緒に夕食まで過ごす。

(13) 新型コロナ対策

各種民間助成金等を利用し、主にひとり親家庭や学生に対する支援を行った。

① みんなにエール！弁当

新型コロナの感染拡大により、収入減少など困窮するひとり親家庭を応援する「みんなにエール！弁当」は2年目も山口市内でのべ25回4,284食、萩市、美祢市、光市、下松市の4市では各市担当者や社協職員の協力を得て、のべ7回1,273個配布。

なお、弁当は県飲食業生活衛生同業組合の協力を得て、地元の料飲組合が紹介した飲食店等に注文し、お米はJA山口県山口統括本部で購入し配布した。

② ごちそうさまプロジェクト

ひとり親家庭の「食」支援として、「宅食（食料品の託送）」「食事券（地元料飲組会の協力）」「買物券（丸久）」「お米（県産新米を配達）」を直接、各家庭に届けることとし、丸久、県飲食業生活衛生同業組合、JA山口県の協力の下、実施した。

11月から1月までの3回、募集し、結局、申込のあった全540家庭に届けた。

③ フードパントリー

ひとり親家庭に関わらず、コロナ禍で影響を子育て家庭を支援するため、7月は県内各地域のこども食堂と連携した「県下一斉フードパントリー」実施(1,300家庭)、9月以降は山口市内全21地域交流センターで巡回パントリーを実施(270家庭)、その後毎月、主にひとり親家庭と多子家庭を対象に定期パントリーを実施(550家庭)。

バイトや仕送り減少で困窮する大学生へのフードパントリーを企画し、山口大と山口県立大に提案。山口大では、大学基金が共催(費用半分負担)し、本部・医学部・工学部でのべ3回実施(400人)、県立大は100人が利用した。

(14) 資金調達

① 助成金等申請

- ・福祉医療機構「令和4年度WAM助成」<3年目・採択>
- ・山口県共同募金会(赤い羽根テーマ募金:6期)<採択>
- ・JT SDGs 貢献プロジェクト助成金(キッチンカー購入)<2021採択>
- ・大和証券グループサステナブル基金助成金(kintone ネットワーク)<2021採択>
- ・日本財団子ども第三の居場所助成金(萩明倫学舎 拠点開設)<採択>
- ・全国こども食堂支援センター・むすびえ「こども食堂基金」<採択>
- ・休眠預金活用事業通常枠(むすびえ)3年間<採択>
- ・厚生労働省「ひとり親家庭等食事支援事業」助成金<採択>こども宅食応援団

【新型コロナ対策】

- ・山口県共同募金会緊急支援 20万円

② 子どもの未来応援企業(3社)

2016年(株)池田建設、サン・ロード(株)

2017年(株)TAMARU

特定非営利活動法人山口せわやきネットワーク R4/2022 総会資料

- ③ 募金箱（50ヶ所）
- ④ 寄附付自動販売機（4台） ※協力：日本コカコーラ・ウエスト（株）
 - 2016年 サン・ロード（株）、防長苑
 - 2017年 マツダ防府工場、山口ザビエル記念聖堂

〔参考〕主な活動

- 2021年 4月10日 山口ライオンズクラブ60周年記念式典 寄付金贈呈式
- 4月14日 小郡中・宮野中「学校朝ごはん（2021）」開始
- 4月23日 ひとり親家庭支援「みんなにエール！弁当」2021年度開始
- 5月19日 JT日本たばこ産業(株)山口支店からお米贈呈式（JA山口統括本部）
- 5月21日 むすびえ共催「こども食堂 感染症対策セミナー（オンライン）」
- 6月21日 吉南青年会議所（JC）からマスク贈呈式
- 7月 8日 「こども食堂開設セミナー(宇部)」,7/19 長門市,7/21 光市,7/29 周南市
- 7月12日 山口県立大学でフードパントリー開催
- 7月13日 山口大学でフードパントリー開催（本部,14 日工学部,15 日医学部）
- 7月14日 ボランティア説明会（学生 オンライン）2回目 3月9日
- 7月17日～25日 「県下一斉フードパントリー」休眠預金緊急枠・むすびえ
- 7月31日・8月7日 大内・宮野・吉敷 学童保育「弁当配布」
- 8月2日・6日 高校生等「アオハル・パントリー」実施（山口市立小郡図書館）
- 8月19日・20日 // 「アオハル・パントリー」（山口市中央公園・県労福協）
- 8月20日・8月27日 「みんなにエール！弁当 in 萩」実施
- 8月27日 「みんなにエール！弁当 in 美祢市」（市内3カ所）
- 9月10日・12月10日 「みんなにエール！弁当 in 下松市」
- 9月21日～10月21日 やまぐち・ほっとパントリー(市内21 地域交流センター)
- 9月22日・10月15日 「みんなにエール！弁当 in 光市」(
- 10月 1日 「ごちそうさまプロジェクト・プラス」募集開始（11月まで3回実施）
- 10月22日 第4回こども食堂推進会議（受託事業、県庁）
- 11月 4日 本願寺山口別院ビハーラ活動研修 講師
- 11月15日 むすびえお宝プロジェクト「市・社協の巻き込み講座」（オンライン）
- 11月16日 山口県央ロータリークラブ例会「卓話」山口グランドホテル
- 11月20日 こども食堂×レノファ山口 サッカー体験教室（維新公園）
- 11月25日 山口県央中小企業経営者協会セミナー「講演」陶地域交流センター
- 11月27日・12月18日 「貧困」と「孤立」研修会（講師：湯浅誠）オンライン
- 11月30日 山陽小野田市出合地区社協視察・講演（さぼらんて）
- 12月 2日 JA山口県から県内各こども食堂にお米（30kg）100袋寄付贈呈式
- 12月 6日 山口市吉敷上東地区老人クラブ総会・講演（上東公民館）
- 12月 3日 「サンタのケーキ便」受付開始（県内230 家庭に抽選・プレゼント）
- 12月14日 「赤い羽根テーマ型募金」活動団体認定式（山口県共同募金会）

- 1 2月25日 司法書士さくらばたけ事務所様からクリスマスケーキの寄付
- 2022年 1月 「赤い羽根テーマ型募金（2021年度）」募集開始（～3月末）
- 1月25日 県ネットワーク「スキルアップ研修会」NPO 法人抱樸奥田知志理事長
- 2月23日 島根県社会福祉協議会「こども食堂交流広場」講師(オンライン)
- 2月24日 「学校朝ごはんセミナー」（キューピー助成金対象）オンライン
- 2月27日 県こども応援ミーティング（日本大学 末富芳教授）第1回(オンライン)
- 3月10日、17日、24日 若き担い手養成研修「あすはなカレッジ」（オンライン）
- 3月14日 県こども応援ミーティング第2回(パルトピアやまぐち・オンライン)
- 3月27日 県ネットワーク「スキルアップ研修会」今給黎辰郎「こども食堂運営」
- 3月28日 第5回こども食堂推進会議（受託事業、県庁）

(15) その他

※講演等・説明 19回 768人

時期	対象・名称	場所	人数
2021.5.21	こども食堂 感染症対策セミナー	オンライン	40人
7.8	こども食堂開設セミナー（全4回）	宇部市総合福祉会館	60人
7.14	こども食堂 ボランティア説明会（全2回）	オンライン	25人
10.22	第4回山口県こども食堂推進会議	山口市（県庁）	25人
11.4	本願寺山口別院ビハークラ活動研修	オンライン	80人
11.15	むすびえお宝プロジェクト研修会	オンライン	20人
11.16	山口県央ロータリークラブ例会 卓話	山口市（山口グランドホテル）	40人
11.25	山口県央中小企業経営者協会セミナー講師	陶地域交流センター	20人
11.27	貧困と孤立研修会（講師：湯浅誠）第1部	オンライン	50人
11.30	山陽小野田市出合地区社協研修会	さぼらんて	40人
12.6	山口市吉敷地区老人クラブ総会 講演	上東公民館	40人
1.25	(県ネ)スキルアップ研修 抱樸奥田理事長	オンライン	60人
2.25	島根県社会福祉協議会「こども食堂」講演	オンライン	50人
2.24	学校朝ごはんセミナー	オンライン	45人
2.27	こども応援ミーティング末富芳先生1回目	オンライン	55人
3.10・17	若き担い手研修「あすはなカレッジ」	オンライン	20人
3.14	こども応援ミーティング（〃）2回目	パルトピア・オンライン	48人
3.27	(県ネ)スキルアップ研修（今給黎辰郎）	さぼらんて・オンライン	25人
3.28	県こども食堂推進会議	山口市（県庁）	25人

②会議等（山口市子育て保健課など）

時期	対象・名称	場所	人数
----	-------	----	----

特になし